

平成18年 5月25日

システム設計論受講者各位

担当講師：樋口 良之

## 確認のための演習の課題

## 1. 課題

UML を使って、受講者各位が対象としたシステムを表記しなさい。ただし、対象とするシステムは、二つ以上のオブジェクトが一つ以上の相互作用を行うものとする。

## 2. 課題の提出方法

紙に表記したものをレポートとして提出する。手書きのものでも、ワードプロセッサを使用したものでもかまわない。日本語で記述することが想定されるが、大部分を英語で記述する場合には、パソコンなどを活用し、手書きのものは受付けない。

## 3. 課題の提出時間

平成18年 6月 1日（木）13:00の講義開始時に教室にて提出する。

13:00の講義開始時に、適切な理由なく提出が遅れた場合には、減点の対象となる場合がある。

## 4. レポート様式

レポートはA4サイズで作成することをお願いする。A3サイズでの記述の方が見やすい場合などがあるが、そのような場合には、記述したものを、A4サイズに収まるように折りたたみ、A4サイズのレポートとしてまとめる。ステープラーでとめたときに、見開きできないような状況にならないように注意する。

当該課題は、かなりのページ数を求めているため、特に、レポートに表紙はつけないようにお願いする。また、レポートにはページ数を付す。例えば、全5ページのレポートであれば、用紙の右上に1/5、2/5、3/5、4/5、5/5といったようにページを付す。また、レポートは左上をステープラーでとめる。

## 5. レポートの内容

レポートに表紙を付すことを望んでいないため、1ページ目の最初に提出日、提出先、提出者学籍番号と氏名、レポートに適切なタイトルを名付け記述する。

以降、レポート作成者の判断で自由に記述してかまわないが、章、節、項などの区分をして区分ごとに適切なタイトルを付して記述するなど、理解されやすい表記に務める。

また、必ず、対象としたシステムについて解説を行うこと。解説がなく、UML だけを示されても、理解できない場合もある。

本講義のオリエンテーションにて説明したように、  
「ビジネス社会に有用な人材となる訓練を兼ねた授業とする」  
との観点から、ビジネス文書、報告書などを念頭に、レポートを作成する努力を求める。

UML は次の 3 つの枠組みで表記すること

- (1) クラス図、レポートの読者の理解を深められる場合にはオブジェクト図
- (2) シーケンス図、コラボレーション図、アクティビティ図のうちから一つ以上
- (3) ユースケース図

## 6. 質問など

UML の表記や当該レポートでの悩み事、質問は、平成 18 年 5 月 25 日 (木)  
13:00 からの授業中に対応する。